

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホームはなみずき西の家)

事業所番号	O670101476		
法人名	株式会社ケアセンターはなみずき		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	山形県山形市深町1丁目9-14		
自己評価作成日	令和 4年 11月 1日	開設年月日	平成 15年 11月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の安全を守り、日々笑顔で穏やかに過ごしていただける空間づくりを心掛けている。利用者様個人の生活リズムを尊重し、利用者様主体のケアを目標としている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3-10		
訪問調査日	令和 4年 12月 13日	評価結果決定日	令和 4年 12月 27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、「笑顔 感謝 やりがい」という理念とユニット理念を、ユニット会議や朝夕のミーティングで確認しながら、利用者が、まずは楽しく、そして心身能力を維持しながら生活できるように支援している。歌や体操、ゲームなどで楽しみ、また、計算問題や漢字の書き取り等脳トレ問題で刺激を受けるよう配慮したりしている。また、コロナ禍の中であるが、季節の折々に、蔵王の紅葉、イルミネーション鑑賞などヘッドドライブしたり、更には戸外での「青空カレー」などの食事、中庭での行事、散歩、買物など、外出の機会の創出に努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員共に理念を共有し実践している。	「笑顔 感謝 やりがい」という理念とユニット理念を玄関等に掲げるとともに、ユニット会議や朝夕のミーティングで確認している。「笑顔の生まれるやさしい対応」、「常にありがとうの気持ちをもって行動」することで、利用者が居心地の良い環境を作り楽しく暮らせるように努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域資源を活用し外部や地域の人々と交流を持つよう努めている。	従前のように、町内会活動に参加したり、歌や踊りのボランティアを受け入れたりはできないが、編み物ボランティアを受けたり、事業所の役割・機能を理解してもらう活動は継続している。地域の方の見守りも頂いている。事業所の祭りに地域の方をお呼びできるような環境になることを心待ちにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々を招いた取り組みで認知症の方への理解を深めてもらえるよう努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で得られる意見はスタッフ間でも共有し活用、改善するよう努めている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回、資料送付と意見聴取という形の開催になっている。メンバーは、町内会長・福祉協力員・包括職員・家族で、従前同様である。運営状況と行事、身体拘束について報告が行われている。多くの意見を頂けるような工夫が期待される。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に連絡を取るといった状態だが、日ごろからの協力関係を気づき上げれるよう取り組んでいきたい。	現在は、市の介護相談員の来訪はない。従って、制度改正の指導の際や、利用者の個別対応について市に相談する機会を活用して、情報を提供し、協力関係が保てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>社内でも指針を作成し研修を行うなどして全職員が理解している。身体拘束のない対応を基本とし工夫をし対応している。</p>	<p>身体拘束対応指針やマニュアル、毎年の勉強会で理解し合い、工夫し適切なケアに取り組んでいる。適正化委員会での検討やヒヤリハット事例の検討をユニット会議で話し合っている。外出したがる利用者には、寄り添いながら注意深く見守り、安全を確保することで、不必要な鍵を掛けなくて済むよう工夫している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者、職員が内外の研修などで学ぶ機会を設けている。虐待が見過ごされないような雰囲気づくりに努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修などで学ぶ機会を作っている。以前成年後見制度を利用している利用者がいたので、これからも適切に支援できると思う。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や改定時は契約書を読み上げ疑問点があれば納得されるまで説明している。解約時も納得して頂けるよう十分な説明をしている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見、要望を表す場として運営推進会議の案内を送っている。管理者、職員へもいつでも言っていたり伝える機会あるごとに伝えている。また、速やかに運営に反映させるよう努めている。</p>	<p>コロナ禍の中であり、丁寧な意見の聴取に努めている。家族からは、前回の目標達成計画を踏まえ、毎月の「お便り」に担当者の自筆文と行事写真を同封して、話しやすい環境を作りながら聴きとるようにしている。また、面会がままならないので、通院同伴の引継ぎの際を利用し希望なども丁寧に訊くようにしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期ごとにコンピテンシーを活用した自己評価を行い各自の向上を図っている。代表者は常に労働環境、待遇の改善に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの経験やスキルに合わせ、内外の研修機会を設けている。	半年ごとの自己評価において、自分の実践の振り返りをしてもらいながら、業務の実施課題や悩みを聞き、指導している。年間計画表に基づき、概ね毎月、時宜のテーマ等で内部研修を実施している。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者や職員を会議、研修などに参加させ同業者との交流に努めている。自事業所でも研修を行い反映させている。	グループホーム協会や県グループホーム連絡協議会等に参加し、現在は、オンラインによる研修会や交流会に参加し、同業者との交流が途切れないように努力している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	希望、不安を伺い、サービスの指針を示すよう心掛けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自事業所の説明を行い不安や疑問について話し合い、信頼関係づくりに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームを理解してもらい、ほかの選択肢も提示、提案している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、利用者共に助け合いながら生活している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など様子を報告し情報の共有を行う。新型コロナウイルスの影響で他県など遠方の家族や面会することに不安を感じている家族にはテレビ電話の使用も勧めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの感染対策をおこなったうえで散歩やドライブなど一緒に楽しみながら支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や行動を把握し利用者同士の関係性を構築していけるよう支援している。活動やお茶の時間など職員が間に入り、皆と協力し楽しめるような雰囲気を作っている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時事の案内や年賀状を送っている。また電話や相談受付にはいつでも対応できるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話、周囲との関係や行動などから、本人の思いや意向を引き出すよう努めている。また、家族や知人などからも情報などを聞き参考にしている。	利用者については、センター方式での記録を基に、普段の生活・会話の中から読み取るようにしている。職員は利用者との会話を増やし、やりたいことや好きなことを見つけ出し利用者本位の意向の把握に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを利用しながら本人との会話や家族、知人の話の中から情報を得て把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録の中で少しの変化や心身の状態の変化などの記入、または日常行っている日課などを記録している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の受け持ち担当を決め、日ごろからの生活様子を観察している。気づきや課題など、モニタリングを行い計画に活かしている。	日々の生活の記録を踏まえて三か月毎にモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っている。見直しの話合いでは、家族の意見や要望を踏まえ、利用者の生きがい・楽しさ・役割・刺激を大切に、現状に即した、「笑顔」のある介護計画となるよう努力している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化やケアの変更などは申し送りノートを活用して周知し、情報を共有し実践している。月一回のカンファレンスで取り上げ、計画に活かしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物の際は利用者と同行し、一緒に買い物を楽しんでもらっている。新型コロナウイルス流行からは感染状況を考慮したうえで感染対策を徹底し実施している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>通院の際はかかりつけ医を受信し、その結果は家族へ報告して情報を共有している。</p>	<p>利用者・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医の往診も受けている。通院付き添いは原則として家族が行い、バイタルなどの情報書面を医師に持参している。受診結果は電話や毎月のお便りで家族に報告し、また家族から報告いただき、記録して、状況を共有している。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>体調の変化が見られた際は看護職員に報告、相談を行い支持をもらっている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>家族や医療機関と情報を共有し、本人の状態を常に把握できるようにしている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>大まかな方向性はあらかじめ家族と話し合い、本人の状態が変化、悪化した場合は報告の上今後の方針を話し合うようにしている。</p>	<p>利用開始に先立つ説明段階から、事業所でできる事と出来ないことを本人・家族に説明している。体調が変化をきたした場合は、医療関係者の意見を聞きながら、その都度家族と対応方針を確認している。現在は看取り支援は行っていない。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応は定期的に研修や訓練を行い、全職員が参加している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。消火訓練や避難訓練など、全職員が参加している。	年に2回、昼夜の火災を想定して防火及び避難訓練を実施している。消防署の参加は得ていない。ハザードマップの確認はしている。食糧や水、暖房器具の備蓄を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を一人の人間として尊敬し、プライドを傷つけたり不快な思いをさせないような配慮を心掛けている。	理念の「笑顔」「感謝」「やりがい」を大切に、利用者一人ひとりの人格を尊重し支援している。特に、普段から「笑顔で優しい対応」を心掛け、ユニット会議などで話し合い、注意し合いながら、より良い言葉掛け・接遇を心掛けている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に自分の気持ちを出せるような雰囲気づくりに努めている。本人が自由に選択できるような支援を心掛けている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活を職員の都合で進めることを減らすよう努め、一人一人に合わせて対応するようにしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が好みの服装でいられるよう支援している。日常の整容や、化粧も行っている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせて料理の下ごしらえやおやつや行事食作り、片付けなどを職員と一緒にこなしている。	ご飯とみそ汁は手作りで、副食は配達を活用し、折々に、芋煮など季節や行事に配慮した食事を楽しめるよう支援している。戸外での「青空カレー」なども企画している。また、利用者が能力を発揮し、「やりがい」を持ってもらうように、下ごしらえ、おやつや行事食作り、片付けなどを一緒に行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は常に記録し、必要時は水分量も記録して状態変化を把握している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立から介助までその人に応じたケアを行っている。一人でうまくできない方であれば仕上げをしながら確認している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツやリハビリパンツ、パッド使用の方でもトイレ誘導を行い、自然な排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表を基に皆で情報交換・話し合いを行いながら、一人ひとりのパターンを把握し、適時声掛けと誘導を行っている。介護計画に具体的な排泄支援を位置づけ、統一的に支援し、評価を繰り返しながら自立に向けた支援をしている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をしスタッフ同士連携し看護師とともに服薬の調整をしている。水分の摂取量が足りなくならないようにも気を付けている。排便を促すような食材も取り入れるようにしている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望を聞きながら入浴の日時を決め、その人に合った入浴ができるよう支援している。	利用者の希望を訊きながら、週2回程の入浴を支援している。安全に入浴するため、併設施設の機械浴も可能である。入浴剤や変わり湯などを活用し、入浴を楽しんでもらっている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの体調に気を配りエアコンなどでの室温調整をし、快く休息できるよう支援している。昼夜逆転しないよう配慮したうえで休んでいただいている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬のことを把握しているとは言えないが、スタッフ同士で配薬を確認し誤薬の防止、服薬後の確認をおこない服薬漏れが無いよう注意している。利用者の症状の変化など気づきがあれば常に看護師に相談している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や体操、皆で楽しめるゲームなど一人一人が楽しめるよう状況に応じて対応するようにしている。計算問題や漢字の書き取り等脳トレ問題も提供している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日とはいかないが季節に合わせた外出の支援をしている。外出に適した天候の日になるべく密集を避けたいえでのドライブや、イベント(芋煮会など)を計画したりしている。	コロナ禍の中であるが、特に日常的な外出機会の創出には努力している。買い物や散歩や中庭のお茶、戸外での「青空カレー」や芋煮会の開催などで外気に触れる機会を作っている。また、季節の折々に、蔵王の紅葉、イルミネーション鑑賞にドライブしたり、普段行けないところへも出かけている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を使うような支援はできていないが、所持に関しては支援している。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や必要があれば常に対応している。贈り物があつた時などは本人が電話できるよう支援している。ご家族や本人からの希望に合わせてテレビ電話での通話も支援している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が季節を感じられるよう花や飾りつけをしている。感染症予防も含め室温に気を付けながら換気をし外気を取り入れるよう心掛けている。利用者が不快に感じたり混乱するようなものがあれば改善し不快感や危険が無いよう心掛けている。	居間などの共有空間は、温度・湿度管理、掃除が行き届き、清潔感がある。換気にも配慮している。また、花や飾りつけで季節感が醸成されている。利用者が思い思いの場所で談笑したり、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間での関係やソーシャルディスタンスに配慮し、それぞれが過ごしやすいよう配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人にこれまでの生活の様子を伺い、家同様落ち着いて過ごしやすい安全に暮らせるよう工夫している。	家族や本人からこれまでの生活を聴き取り、好きな家具、家族の写真などを持ち込んでもらい、飾り付けを行ってもらっている。自宅に居ると同じ雰囲気ですぐ居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の家具の配置、動線の確保など安全に配慮している。トイレなどは分かりやすいように工夫している。		